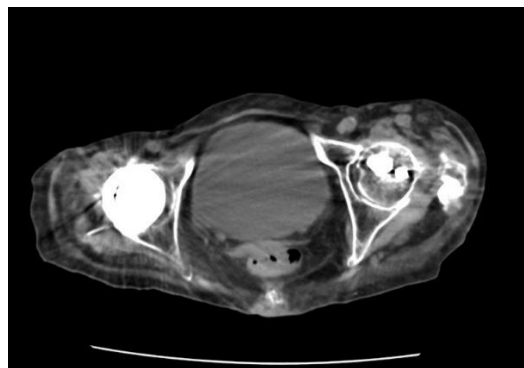
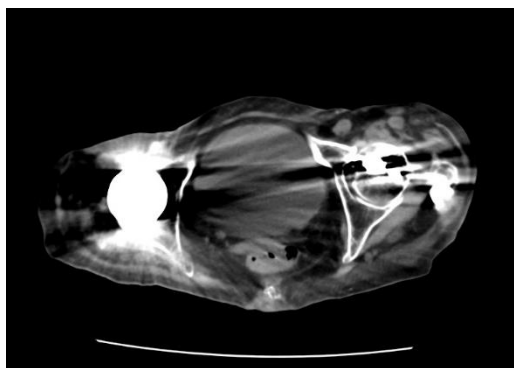


済生会小樽病院 CT 室紹介

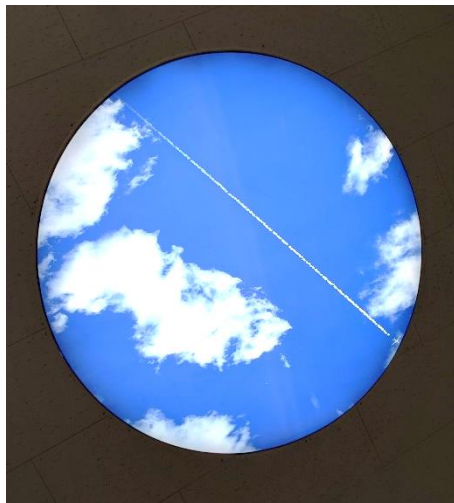
済生会小樽病院の放射線室では、昨年 CT が更新時期を迎え、11 月から新たに Aquilion Prime SP i が稼働を開始しました。この記事では、新しい装置になって感じたことや、ちょっと珍しい CT 室の設備について皆様にご紹介したいと思います。

キヤノン製 64 列 CT から今回 Prime SP i になったことで感じた変化としては、被ばく線量が少ないということです。当院では基本的に再構成に AiCE を使用しています。同じ患者さんで比較したところ、CTDI vol は約半分～3分の 1 程度に抑えられていたのですが、画質は以前の装置とほとんど変わりありませんでした。線量を大幅に抑えても、診断に耐えうる画像を作ってくれる AiCE の力に驚いたところです。

また、人工股関節からのアーチファクト低減のために SEMAR をよく使用しています。下に示す写真のように、以前は人工関節があると、アーチファクトのせいで骨盤内臓器が見えなかったのですが、どうしようもないものとして諦めていましたが、現在は SEMAR のおかげで骨盤内もしっかり観察できるようになりました。さらに、アーチファクトを低減すると、3D も作成しやすく、そして見やすくなりますので、そのような点からも SEMAR は重宝しています。（画像 左：SEMAR なし、画像 右：SEMAR あり）



また、今回の装置更新に伴い、検査室にシーリングライトが導入されました。シーリングライトには青空が描かれているのですが、このような照明は道内のCT室では初導入なのだそうです。感想としては、“入れてよかった！”です。患者さんにも病院スタッフにも好評で、入室すると「空がある！」「飛行機雲だ！」という嬉しい反応をしてくれます。中には、「今日は晴れてるんだっけ？（患者さん）」「雪ですね～（スタッフ）」といった会話も生まれており、コミュニケーションのきっかけにもなっていました。沢山ある柄の中から青空と飛行機雲を選択した理由は、Head First / Feet First のどちらから見ても違和感がないからです。最初は虹の入った柄を考えていたのですが、虹だと弧の向きを考慮しなくてはならず、考え直して今の柄になりました。青空と飛行機雲でしたら上下左右どの向きでも気になりませんし、季節も問わないので、今となっては正解だったと感じています。



快適な検査空間と新しい装置で、これからも患者さんに優しい検査を行っていきたいと思います。以上で済生会小樽病院のCT室紹介を終わります。お読みいただきありがとうございました。